

秋冬どりブロッコリーに発生するべと病の回避技術

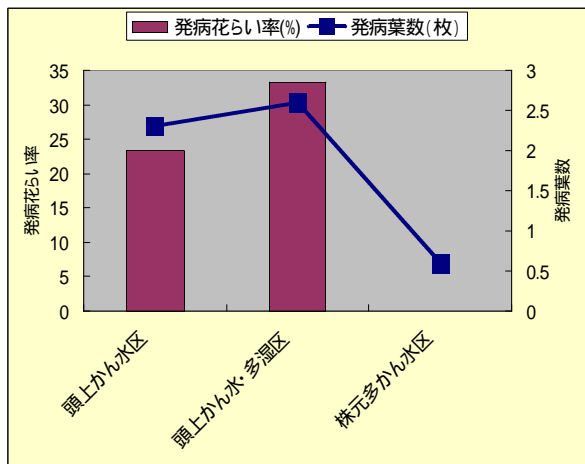
秋冬どりブロッコリーでは、平成14年～15年に通常葉に発生するべと病の病原菌が花らいに感染して黒褐変症状の被害が多発し、対策技術の確立が求められました。

この被害を軽減する対策として、耐病性品種の利用、堆肥や窒素の多量施用を避けた施肥、葉及び花らいがべと病に感染しやすい時期の有効薬剤の散布などを組合せた総合的な防除体系を確立しました。

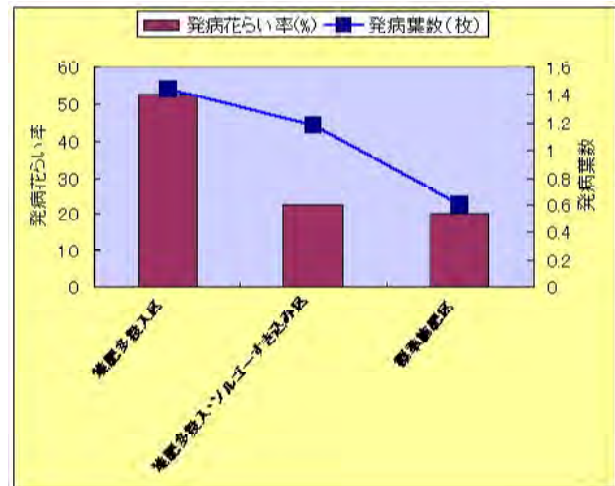


ブロッコリーべと病の花らいにおける症状(左)と葉における症状(右)

- ・花らいは表面だけでなく花茎内部も褐変し、出荷不能となる。
- ・葉は通常、下位の3枚程度に発生。



10月下旬～11月中旬頃、作物体が長時間、濡れた状態にあると花らい発病は増加する。



花らい発病は窒素肥料や堆肥の多施用により増加するが、ソルゴーを作付すき込むことで軽減される。

ブロッコリーべと病の防除体系

- ・耐病性品種の利用
(花らい発病が少なかった品種例：沢ゆたか、緑嶺、グリーンパール、直緑93、盛緑180)
- ・適正な土壌・施肥管理
窒素肥料や堆肥の多量施用を避ける。
窒素過剰のほ場では、緑肥作物(クリーンククロープ)を作付する。

- ・薬剤散布
10～11月3回散布
適用薬剤：リドミルM Z水和剤
ランマンフロアブル
ダコニール1000
Zボルドー水和剤

